

【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】
2025年度 最優秀園
城崎こども園

0、1歳児の事例に特化し、子どもたちが五感を通じていかに豊かな世界と出会い、身体と感覚から「科学する心」を芽生えさせているのかが、個々の子どもの動きや表情とともに、非常に細かく、かつ丁寧に述べられています。発話や友達との対話の少ない0、1歳児の子どもたちの姿を、言語に頼らずこれだけの実践記録として記述できることは素晴らしく、保育者の子どもを見る目の豊かさ、エピソード紹介で終わらせない深い洞察に、本論文の独自性を感じ、高く評価しました。

ひとつひとつの実践の良さもさることながら、各事例を【1】環境との出会いから芽生える心、【2】感覚と身体を通じた探究、【3】他者との関わりの中での学び、【4】保育者のまなざしによる支え、の4つで色分けし、読み手に0、1歳児の子どもにも確かに「探究」の姿があることをわかりやすく伝えている点や、保育者の考察の見出しの「身体で選ぶとる“いま、ここ”の遊び」、「歩くことが“選ぶとること”になるとき」「素材と道具がひらく“まぜまぜ”の探究」といった興味深い表現は、保育に新たな視点を提示しています。現地を訪問しての調査では、保育者が細やかに子どもの姿や様子を記録し、共有することを楽しむ様子が見られ、こうした日々の取り組みが、保育者の深い読み取りや見通す力につながっていると言えるでしょう。

0、1歳児の「科学する心」と「探究」のはじまりがしっかりと捉えられ、多くの示唆があり、広く、多くの方に読んでいただきたい論文です。この成果をもとに、2歳児以降の保育へとどのように繋がっていくのかについても、引き続き研究を重ね、発信していかれることを期待します。